

【事業報告】

## 令和4年度

# 大阪大谷大学特別支援教育実践研究センター事業報告

小 田 浩 伸\*

### 1. 人員構成及び運営委員会

#### (1) 人員構成

特別支援教育実践研究センター長 教授 小田浩伸

運営推進教員 教授 福井 美保

准教授 五位塚和也

#### (2) 運営委員会

センター業務の円滑な進行を目的とし、センターの運営や事業実施に関わる事項の審議を行っている構成員はセンター長、センター運営推進委員であり、運営委員会は毎月の教授会後に実施している。

### 2. 研究・研修事業

令和4年度は、特別支援教育実践研究センター構成員（センター長、センター運営推進委員）によって、次の研究課題（事業）に取り組んできた。

#### (1) 大阪大谷大学と大阪府教育庁との連携研修・塩野義製薬株式会社との共催

##### ①研修概要

「令和4年度小中学校、高等学校、支援学校特別支援教育コーディネーター・アドバンス研修」

本研修は、大阪大谷大学と大阪府教育委員会が連携して、平成19、20年度は独立行政法人教員研修センター事業「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」、平成25年度は文部科学省「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」、平成27、28年度は独立行政法人教員研修センター事業「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の研究委嘱を受け

\*大阪大谷大学特別支援教育実践研究センター長

て実施してきた。平成 29, 30 年度は塩野義製薬株式会社との共同研究として研究補助を受けて実施し、令和 1~4 年度も引き続き研究補助を受けて共催として実施してきた。このように本研修は、全国に例のない「産・官・学」が連携した教育研修事業に発展してきた。なお、本研修は、大阪大谷大学と大阪府教育委員会との連携協力に関する協定（平成 19 年 8 月 30 日）の一環として実施している。

②実施時期：令和 4 年 5 月～令和 5 年 2 月

③対象人数：48 名（小中学校教員 21 名，高等学校教員 5 名，支援学校教員 22 名）

④研修会場：大阪大谷大学（本学，ハルカスキャンパス）こども園，府立高等学校等

⑤研修目的

支援教育を推進する専門性の高い小中学校，高等学校，支援学校の特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修（上級研修）として，身につけるべき知識・技能の機軸を次の 4 つに集約し，実践的に研修を進めていく。

⑥研修日程：全 17 回の研修プログラム（次項に掲載）※当初計画は全 18 回

⑦研修内容：支援教育を推進する専門性の高い小中学校，高等学校，支援学校の特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修として，身につけるべき知識・技能の機軸を次の 4 つに集約し，少人数制で実践的に研修プログラムを進めていく。

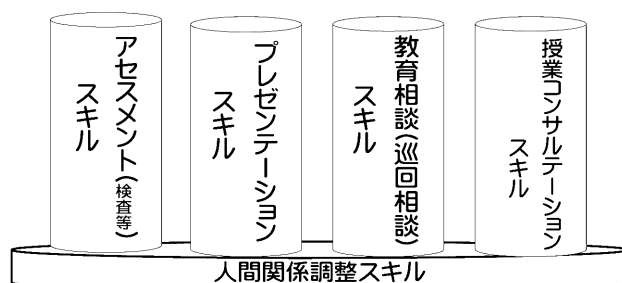
◇障がいのある子ども一人ひとりの実態・特性を適切に把握するためのアセスメントスキル（WISC-IV等の検査実施・解釈・活用）

◇校内及び地域の教育相談等を担当するための巡回相談（教育相談）スキル（事前準備，巡回相談スキル実習，コーディネート等）

◇学校内や外部の研修・理解啓発等を担当するために必要なプレゼンテーションスキル（パワーポイントソフトの基礎・応用技能，著作権，発表スキル）

◇授業づくり・授業改善を計画・支援していくために必要な授業コンサルテーションスキル（授業のユニバーサルデザイン，教材作成等）

特別支援教育コーディネーター・アドバンス研修の機軸となる4つスキル



#### ⑧大阪府教育庁及び市町村教育委員会との連絡調整等

◇連携調整の会議は、大阪府教育庁と計8回（事前2回，事中4回，事後2回），府立学校管理職との連携調整（2回程度），市町村教育委員会指導主事との連絡調整（2回程度）を行い，必要に応じて大阪府教育庁，市町村教育委員会，各校，大学との連絡調整については，電子メールで行っている。

◇連絡調整等の内容：実施計画（研修日程・内容及び会場に関する連絡調整等），研修実施（研修内容の実施状況，問題点に関する連絡調整等），研修評価（自己評価，所属長評価等のあり方等の連絡調整等），全体考察（全体検証，プログラム改善，検討事項の調整等），研究成果物及び配布に関する連絡調整等

#### ⑨研修の進め方と評価

◇研修の回数は18回であるが，年間を通して研修を進めていることを前提する。したがって，毎回の研修終了後に課題を提案していく（本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で15回実施となった）。

◇連絡調整及び課題のやりとりは，電子メールで行う。

◇全研修終了時点で，研修全体の評価を行う。

#### ⑩研修総括評価

##### ◎専門性の高い特別支援教育コーディネーター養成研修としての成果

本研修の受講者はすでに支援教育コーディネーターの役割を担っている教員や，今後特別支援教育コーディネーターのリーダー的な役割を期待される教員である。そのため，研修に対するモチベーションは高く，各校種でグループを組んでの実習や討議，校種間でグループを組んでの実習・討議がスムーズに行われ，かつ各校種内では課題解決に向けた議論の深化，校種間では幅広い視野での支援のあり方についての情報交換が積極的に行われた。また，支援教育コーディネーターの経験に多少のばらつきがあったことにより，経験豊富な教員は指導・助言の研修にもつながり，研修受講者相互に刺激し合える関係での研修実施が行われた。以上のことから，本研修はより専門性を高める「アドバンス研修」のニーズと求められる役割は大きいと考えられ，今後も継続していく必要性が確認された。

##### ◎研修受講者間のネットワークづくりとしての成果

本研修の受講者は，小中学校，高等学校，支援学校と他校種から構成されることが特徴であり，受講者が中核となって専門性を伝達・継承していくというシステム構想を描いている。今年度の受講者は，小中学校から21名，高等学校から5名，支援学校から22名の計48名の参加であり，すべての校種から受講されていた。各回での校種を超えたグループ協議や，地域ブロックによるグループ協議も行ったことから，他校種や地域関係の受講者間のネットワークを形成するきっかけになったものと考えられる。その一助として，研修者間の

ネットワークに活かしていただくために、公開可能なアドレスを一つ提供いただき、了解を得て一覧を受講者に配布した。これまでの受講者から、アドバンス研修で出会った人たちと何年もつながって交流できていることを多く聞いている。本研修で知り合った受講者どうしが、今後もつながって気軽に相談できる関係性が構築され、今後の支援教育の充実に向けた効果的な連携につながることを期待したい。

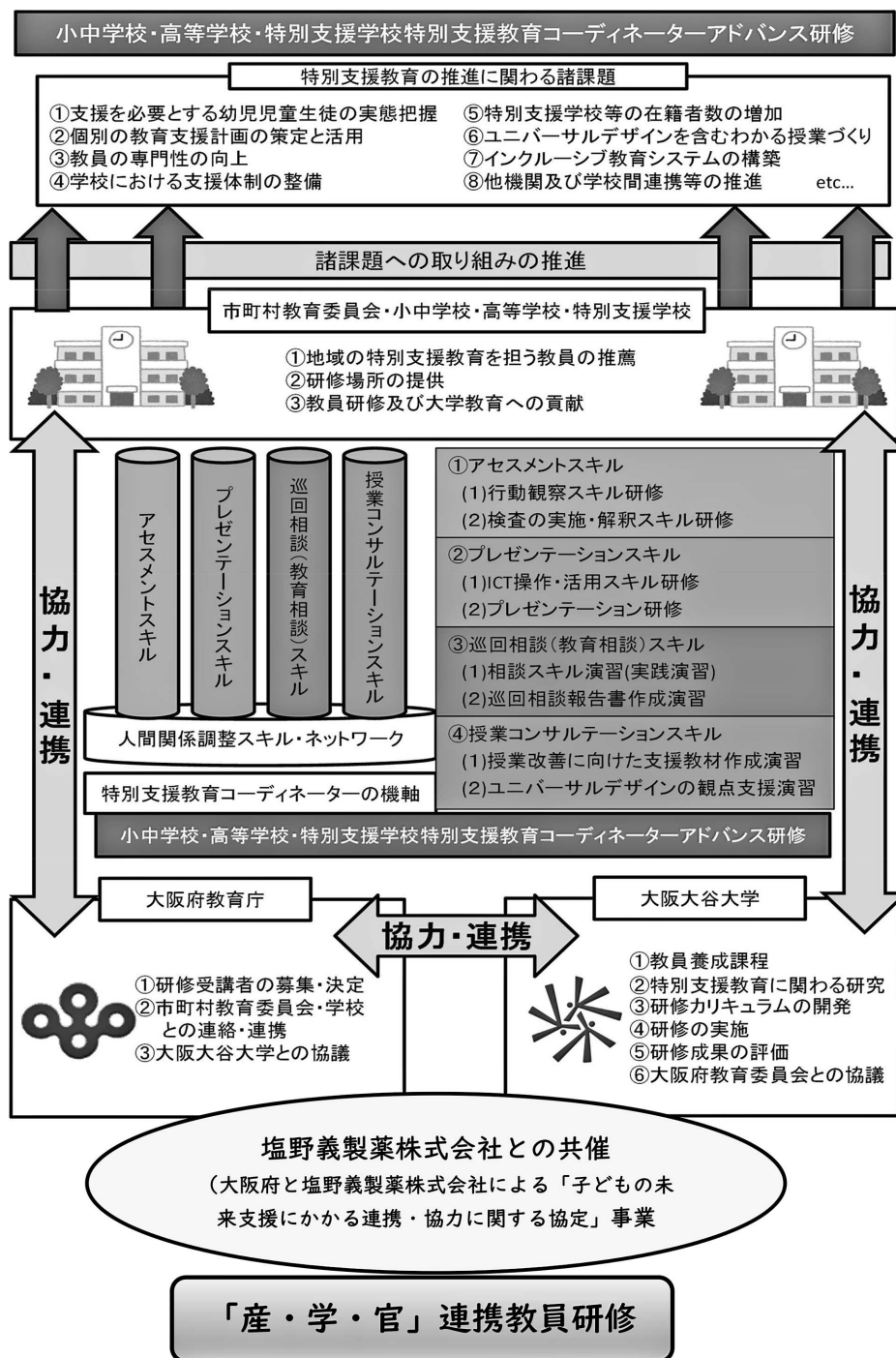


アドバンス研修最終回の集合写真



最終回の修了書授与

①研修の全体構想



令和4年度 小中学校, 高等学校, 支援学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修

回	日程	研修内容	講師等
1	5月17日(火) 14:00～17:00 (大阪大谷大学ハルカスカンパス)	<開講式・オリエンテーション> ①あいさつ・研修オリエンテーション ②研修講師及び研修者の自己紹介 ③講義・協議	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
2 ・ 3	①6月14日(火) ②6月16日(木) ③6月17日(金) ④6月21日(金) ⑤6月24日(火)	<こども園・幼稚園巡回相談スキル研修(1)> *こども園・幼稚園への巡回相談実習 (行動観察・保育参観、相談実習、報告書の作成等) *5日間のうち、いずれか1日を選択する	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
4	7月12日(火) 14:00～17:00 (大阪大谷大学ハルカスカンパス)	<プレゼンテーションスキル研修(1)> ①プレゼンテーションの意義・活用・倫理(著作権) ②プレゼンテーションの基礎・応用スキル(演習) ③プレゼンテーションの作成演習(設定課題に対する取組)	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
5	8月16日(火) 9:30～12:30 (大阪大谷大学本学)	<模擬校内委員会：ケース会議の在り方研修> ①小学生におけるケース会議の在り方 ②高校生におけるケース会議の在り方 ③アセスメントに関する研究協議	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
6 ・ 7	8月18日(木) 9:30～17:00 (大阪大谷大学本学)	<アセスメントスキル研修(1)(2)> ①アセスメントの基礎理論(行動観察、情報収集、検査法) ②WISC-IV・V検査法の実際(演習Ⅰ) ③結果の解釈(演習)・協議	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
8 ・ 9	8月19日(金) 9:30～17:00 (大阪大谷大学本学)	<アセスメントスキル研修(3)(4)> ①WISC-IV・V検査法の実際(演習Ⅱ) ②検査を実施した事例の総合解釈 ③個別の指導計画への活用	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
10	9月1日(木) 14:00～17:00 (大阪大谷大学本学)	<授業コンサルテーションスキル研修及び関連分野との連動> ①内容と今後の研修内容の在り方 ②学校間の連携と専門性向上の在り方 ③小中学校、高等学校の地域支援体制についての課題等	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
11	10月4日(火) 14:00～17:00 (大阪大谷大学ハルカスカンパス)	<プレゼンテーションスキル研修(2)> ①プレゼンテーション演習と協議(モデル発表研修) ②プレゼンテーション演習と協議(設定課題のプレゼン研修) ③協議(校内・外部研修担当をする場合の準備・ポイント等)	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
12 ・ 13	11月8日(火) 9:30～17:00 府立松原高等学校	<巡回相談(教育相談)スキル研修(2)> *大阪府立松原高等学校の実践 ・集団づくり・授業の工夫から学ぶ ・自立支援コース・通級による指導の現状と課題	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
14 ・ 15	12月13日(火) 9:30～17:00 (大阪大谷大学ハルカスカンパス)	<プレゼンテーションスキル研修(3)> ①プレゼンテーション発表会 ②プレゼンテーション演習(効果的な方法・応用等) ③プレゼンテーション教材(スライド・コンテンツ)の共有	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
16	1月17日(火) 1月20日(金) 9:30～12:30	<巡回相談(教育相談)スキル研修(3)> *1/17 大阪府立たまたがわ高等支援学校訪問(見学・参観) *1/20 東朋高等専修学校訪問(見学・参観) ・高等支援学校、私立学校の現状、キャリア教育、就労・進路支援等について学ぶ(いずれかの1校を選択(両方も可))	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等
17	2月14日(火) 14:00～17:00 (大阪大谷大学ハルカスカンパス)	<研修のまとめ及び事後オリエンテーション> ②研修の自己評価とまとめ、研修終了後の連携の在り方等 ③研修修了書の授与 ④全体講評	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育庁 指導主事等

(2) 特別支援教育実践研究センター第8回セミナーの開催

- ①日 時：令和4年11月18日（金） 18時30分～20時00分
- ②場 所：大阪大谷大学ハルカスキャンパス（現地参加とZoom参加によるハイブリット）
- ③テーマ：「学校で働く看護師の役割について」
- ④講 師：植田陽子 氏（医療法人財団はるたか会 Nurse Fight プロジェクト担当看護師）
- ⑤参加者：70名（卒業生、学生、教育委員会、小中学校、高等学校、支援学校の教員等）
- ⑥参加形式：「会場への参集参加」と「ZOOMによるリモート参加」のハイブリット型で実施
- ⑦成 果：発学校において医療的ケアを実施する意義、看護師の役割、教育と医療の連携のあり方等について、具体的事例を通してご講演いただいた。詳しくは別項参照。

(3) 大阪府教育委員会特別支援学校教育職員免許法第2認定講習の開催（指導大学）

（講習科目の日程、会場及び講師）

大阪府における特別支援学校免許の保有率を高める施策として、大阪府教育委員会の依頼を受け、大阪大谷大学が指導大学となり、本学会場で特別支援学校教育職員免許法認定講習（大阪府第2認定講習）を計画・実施した。概要は次の通りであった。

科 目	日 時	会 場	講 師
肢体不自由教育総論	① 8月9日（火） 9:30～12:40	大阪大谷大学	大阪大谷大学教授 小田 浩伸
		大阪大谷大学	大阪大谷大学准教授 五位塚 和也
	② 8月10日（水） 9:30～12:40	大阪大谷大学	大阪大谷大学教授 福井 美保
		大阪大谷大学	大阪大谷大学准教授 五位塚和也
特別支援教育基礎論	① 8月11日（木） 9:30～12:40	大阪大谷大学	桃山学院教育大学教授 松久 眞実
		大阪大谷大学	大阪大谷大学教授 小田 浩伸
	② 8月14日（日） 9:30～12:40	大阪大谷大学	梅花女子大学教授 関喜 美史
		大阪大谷大学	大阪大谷大学教授 小田 浩伸
病弱教育総論	① 9月3日（土） 9:30～12:40	大阪大谷大学	関西学院大学教授 丹羽 登
		大阪大谷大学	大阪大谷大学講師 川戸 明子
	② 9月10日（土） 9:30～12:40	大阪大谷大学	大阪大谷大学講師 川戸 明子
		大阪大谷大学	大阪大谷大学教授 福井 美保

#### (4) 発達相談事業

令和4年度の発達相談は、就学・進学、学びの場の検討（通常の学級・特別支援学級・通級指導教室）に向けた根拠資料となる WISC-IV 知能検査のニーズが高く、令和4年4月～令和5年3月までの期間に約50事例の検査を実施し、検査結果の報告を行った。

学生による発達相談の補助実習として、行動観察記録、面接時の記録、設定遊びへの参加、学習課題の設定、WISC-IV 知能検査の補助や行動観察記録、保護者への検査報告の同席（保護者の許可が前提）などを設定した。発達相談の補助を通して、検査結果の解釈、行動観察の視点、個別の支援と集団における支援の両面のあり方、保護者対応の仕方等、教育現場ですぐに役立つ貴重な学びの機会となっている。

#### (5) 教員採用試験対策（学生支援）事業

教職をめざす学生の教員採用試験対策として、発達臨床室を開放しての筆記試験対策、各教員による面接・模擬授業対策、実技対策を実施した。令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、4月から9月まで継続的に面接や模擬授業対策を実施した。令和4年度の教員採用試験の合格者は、特別支援学校合格者16名、私学高等学校1名、こども園1名の計18名であり、特別支援教育専攻における教員採用試験受験者を分母にした合格率は約62%であった。来年度も本センターの機能を行かして、早期から教員採用試験対策を開始していきたい。

#### (6) 巡回相談及び学校コンサルテーション事業

令和4年度もこども園、保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の多様な学校園から、特別支援教育実践研究センター教員に対して巡回相談や学校コンサルテーションの依頼があり、学校園に出向いて巡回相談やコンサルテーションを実施してきた。次年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら可能な限り学生も同行させて、学生にとっての実践的な学びの機会として活用している。

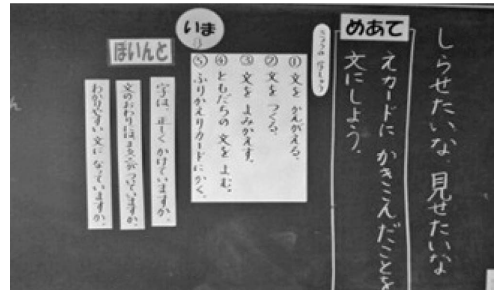
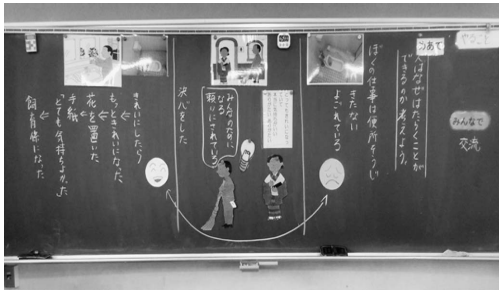




教員採用試験面接・模擬授業練習場面



発達相談場面



授業のユニバーサルデザイン例（巡回相談場面）